

七条中学校だより5月12号

京都市立七条中学校

令和8年5月28日

発行：校長 林 秀雄

時間を大切にしていますか？

早くも5月が終わろうとしています。4月から今日までの時間の流れを、皆さんはどのように感じているでしょうか。「もう5月が終わるのか、あっという間だった」と感じている人もいれば、「まだ5月か、早く夏休みが来ないかな」と思っている人もいるかもしれません。このように、時間の感じ方は人それぞれです。それぞれが自分のペースで学校生活を送っていることと思います。今日は、日々の学校生活の中で、私たちが当たり前のように過ごしている「時間」について、少し立ち止まって考えてみたいと思います。

朝の始業時刻ぎりぎりに登校する人、あるいは遅れてしまう人。授業開始のチャイムが鳴ってから着席する人もいます。体調がすぐれない、家庭の事情があるなど、やむを得ない理由で遅れてしまうこともあるでしょう。それ自体を責めるものではありません。しかし、もし遅れることが当たり前になっているとしたら、それは単に「時間に間に合っていない」という問題にとどまりません。時間を大切に・守るということは、単に学校のルールを守ることが本質ではありません。それは、大げさに言えば「自分はどのように生きるのか」という姿勢そのものに関わる大切なことです。私たちは、一日一日、限られた時間の中で生きています。その時間は誰にとっても平等であり、そして二度と戻ることはありません。授業が始まるその瞬間も、朝のわずかな時間も、皆さんの人生の一部です。そこに遅れるということは、ただ授業の数分を失うだけではなく、自分自身の大切な時間を軽く扱っていることにもつながります。

さらに、時間は自分一人のものではありません。同じ時間を共有している仲間や先生がいます。時間を守ることは、その人たちの時間を大切に、信頼関係を築くことにも関わってきます。

逆に、時間に対してルーズであることが続けば、その姿勢はやがて生活全体に現れます。「少しくらいならいいだろう」という甘えは、知らないうちに大きな差を生んでいきます。では、どうすればよいのでしょうか。特別なことではありません。「あと5分早く動く」「前の日に準備をしておく」この小さな積み重ねこそが、自分の時間の使い方を変え、ひいては自分の生き方を変えていきます。

今一度、自分に問いかけてみてください。自分は、与えられた時間を大切に使えているだろうか。時間を守ることを、本当に大切に考えているだろうか。

七条中学校の皆さん一人ひとりが、学校生活を通して「時間を大切にすること」「時間を守ること」を、自分自身の生き方として意識し、身につけてほしいと願っています。まずは、一日の始まりを、よりよい形で迎えることから、その第一歩を踏み出してほしいと思います。

「人・学・和」を感じた、金沢の街角での一場面

修学旅行で金沢を訪れた三年生の皆さん。歴史や文化に触れながら、仲間と過ごす時間の中で、皆さんはどんな学びを得たでしょうか。その班別活動の最中、私はまたまた心温まる場面に出会いました。気温が高く、歩くだけでも体力を奪われるような午後のこと。ある班が市内を歩いていましたが、その中の一人の女子生徒が疲れて遅れ始めていました。すると、それに気づいた男子生徒がすぐに駆け寄り、声をかけ、持っていたペットボトルを差し出しました。女子生徒はそのペットボトルをつかみ、男子生徒に引かれるようにして歩き出しました。この光景を見て、私は胸が温かくなりました。そこには、・仲間を思う優しさ・気づいたら行動に移す力・支えてもらったことへの素直な感謝 等。そんな、七条中で日々育てている「人を大切にできる心」がありました。そして、普段の学校生活で築いてきた信頼関係が、あの一瞬に表れていたのだと思います。

＜「人・学・和」を大切にすることは、こういうこと＞

年度当初に皆さんに伝えた生徒行動目標、「人・学・和を大切にできる生徒」。あの金沢の街角での出来事は、その言葉がそのまま形になった瞬間でした。・人を思いやる心（人）・学びの中で気づき、行動する力（学）・仲間とつながり、支え合う姿（和）。そのすべてが、あの小さな場面に凝縮されていました。

＜三年生の学年テーマ「輪・つながる」が広がることを願って＞

三年生のテーマは「輪 つながり」。輪とは、つながりであり、支え合いであり、広がっていく力です。金沢で見たあの優しさの輪が、三年生だけでなく、一・二年生へ、そして学校全体へと広がっていくことを心から願っています。七条中学校が、・困っている人に自然と手を差し伸べられる学校・仲間の頑張りを認め合える学校・支え合いながら成長していく学校。そんな“あたたかい輪”に満ちた場所であってほしいと感じました。皆さん一人ひとりの行動が、その輪をつくり、広がっていきます。